

タイトル:平成 28(2016)年度 教育セミナー(第 12 回)

日時:2016 年 9 月 18 日(日)~21 日(水)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

「マフディー・アーミルとレバノンの宗派をめぐる思想」

早川 英明 (東京大学大学院総合文化研究科)

この度は中東☆イスラーム教育セミナーに参加させて頂き、深く感謝しております。今回のセミナーでは、様々な先生方の講義を拝聴することができました。ご自身の研究内容や、ご自身の問題意識についてのお話、ご自身のご経験をもとに研究テーマの見つけ方や研究者としてのキャリアについてのお話、また「共同研究」についてなど極めて具体的かつ実践的なお話などを伺うことができ、まだまだ未熟な研究しかできない私にとっては様々な意味で大変参考になる経験となりました。また、他の受講生の発表を聞くことができたことも、大変刺激的な経験となりました。同年代の皆様の発表はどれもレベルが高いもので、私は自らの研究能力、姿勢を反省いたしました。中には卒業論文をもとに発表された修士課程 1 年生の方などもおりましたが、卒業論文の時点です既に私の修士論文よりも遙かに優れた研究を行っている方もいるという現実を目の当たりにして、今後自分の研究においても精進せねばと思った次第であります。

私はといえば、3 日目に発表をさせて頂きました。当然セミナー初日までには一応発表を完成させてはいましたが、どうも疎漏なく議論がまとまった気がしません。どのような議論をしたらよいか、初日と 2 日目は休憩時間の度に眉間にしわを寄せて考えていました。あまり褒められたものではありませんが、発表前日から当日にかけて徹夜で内容を修正し、朝コンビニでレジユメを印刷しました。ギリギリに印刷をすると罰が当たって必ず紙詰まりや用紙切れなどのトラブルが起こるものですが、今回は両方とも起こってしまいました。発表が終わった時には憔悴してしまいました。

かなり積極的な学生は別かもしれませんが、修士課程の学生で、ある程度公式な場所でまとまった発表を行う機会は限られているでしょう。ですから、このセミナーは修士課程の学生にとってはかなり有難い機会であると思います。私も普段自分の所属するゼミや内輪の研究会などで発表する機会はありますが、多くの先生方や大勢の学生の前でまとまった発表をするのは初めてでした。そのため、ある程度の緊張感をもって、議論の筋道の細かいところまで気にしながら発表をまとめるという経験となりました。それがいかに大変かを知ることができたというだけでも、発表をして良かったと思っています。そしてもちろん、先生方や受講生の皆様にたくさんの助言を頂けるということも、大変贅沢な機会であったと思っています。

最後に、先生方、運営者の皆様、受講生の皆様に感謝申し上げます。